

ふくい環境

令和元年度版



福井市

はじめに

本書は、福井市の環境に関する様々な取組の成果や環境の状況をとりとまとめたものです。多くの皆様方にご活用いただき、環境問題や環境行政に関する理解を深め、環境の保全と創造に向けた活動の一助となれば幸いです。

目次

はじめに・目次.....	2
ご案内.....	3
第1部 特集 平成30年度のトピックス.....	4
1 「COOL CHOICE FUKUI」フェスタ開催!!.....	5
2 ごみ処理基本計画を改訂しました！.....	6
第2部 第3次福井市環境基本計画.....	7
1 概要.....	7
2 進捗状況.....	8
3 福井市環境推進会議の活動実績.....	10
第3部 福井市の環境状況.....	11
1 自然環境.....	11
2 地球温暖化.....	12
3 環境教育・啓発.....	13
4 大気.....	14
5 公共用水域の水質.....	16
6 地盤沈下.....	17
7 騒音.....	18
8 ごみの排出と処理状況.....	19
9 美しいまちづくり.....	20



1 資料編のご案内！

この「ふくいの環境令和元年度版」は、平成30年度の福井市の環境について、その概要をまとめたものです。詳細なデータ等につきましては、福井市環境政策課のホームページに「ふくいの環境 資料編」を掲載します。どうぞ、ご活用ください。

2 清掃事業概要のご案内！

本誌中に記載しました福井市の清掃事業の詳細につきましては、福井市環境政策課のホームページに「令和元年度 福井市清掃事業概要」を掲載します。どうぞ、ご活用ください。

3 本誌中の写真について

本誌中に掲載しました写真につきまして、提供元等は下記のとおりです。

（ 表紙写真：コウノトリ 提供：福井市自然史博物館 ）

第1部 特集 平成30年度のトピックス

1 「COOL CHOICE FUKUI」フェスタ開催!!

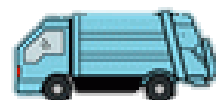


2030年度の温室効果ガスの排出量の削減目標達成のために、省エネ・低炭素型の製品、サービス、行動など、温暖化対策に資するあらゆる「賢い選択」を促す国民運動「COOL CHOICE」に賛同し、平成29年度から**COOL CHOICE FUKUI**事業に取り組んでいます。

平成30年は、「COOL CHOICE」が市民の日常においてあたりまえの取組になることを目指して『COOL CHOICE FUKUI フェスタ』や『高校生クールチョイス選手権』などの事業を行いました。



2 ごみ処理基本計画を改訂しました!



平成26年2月に策定した「福井市資源物及び廃棄物（ごみ）処理基本計画」について、平成30年度で当該計画の前期間が終了し、新たな基本目標を定める必要があることや令和8年度に新ごみ処理施設の稼働開始が予定されていることを背景に、平成31年3月に改訂しました。

改訂した計画では、前期期間の計画の理念（テーマ）である『「おとましい」を「行動」へ』を踏襲し、1人1日あたりのごみの排出量を、令和5年度までに**850グラム**とすることを目標に、取組の方向性を掲げました。



1 「COOL CHOICE FUKUI」フェスタ開催！！

平成30年度の「COOL CHOICE FUKUI」事業では、温室効果ガスの排出削減目標 26%、とりわけ家庭部門 40%の達成に向けて、福井市の特性である、①1世帯あたりの電気使用量が多い（全国1位）、②1世帯あたりの自動車保有台数が多い（全国7位）、③食品の地産地消率が高いことに焦点を当て、「COOL CHOICE」が市民の日常においてあたりまえの取組になることを目指し、若者世代を中心に地球温暖化問題について考え、行動に移せるよう広く啓発活動を行いました。

達成！

6,794名

1 「COOL CHOICE FUKUI」事業目標と成果

目標：「COOL CHOICE FUKUI」への賛同者数5,000名以上（累計）

2 「COOL CHOICE FUKUI」実施事業

I 「COOL CHOICE FUKUI フェスタ」の開催

地球温暖化問題について広く市民に知ってもらう機会として、「COOL CHOICE」をテーマとした体験型イベントを開催しました。

- ・開催日 平成30年11月18日（日）
- ・会場 福井県産業会館2号館
- ・来場者数 18,000人
- ・内容 省エネ家電、エコカーの展示
人力発電によるエコ遊具
省エネ相談会
福井市環境推進会議出展ブース など



II 高校生クールチョイス選手権の開催

「私たち高校生が大人になる2030年の未来、私たちが住む福井は、地球はどうなっているだろうか？ミライのためにイマできることが私たちにもあるはず。」をテーマに、高校生を対象とした地球温暖化防止に関するアイデアコンテストを開催。73組の応募の中から予選を通過した5組による決勝戦を「COOL CHOICE FUKUI フェスタ」会場にて行いました。

- ・開催日 平成30年11月18日（日）
- ・会場 福井県産業会館2号館（「COOL CHOICE FUKUI フェスタ」特設ステージ）
- ・決勝戦内容
ラウンド1：クールチョイスクイズ
ラウンド2：クールチョイス体感競技
ラウンド3：プレゼンバトル「2030 未来への提言」
- ・優勝チーム 藤島高校「チアシード」
【アイデア概要】冷暖房の使用が増加しがちな週末を家族と共に過ごすことで使用される部屋を減らし、二酸化炭素排出量を減らす。

III 啓発CMの制作・放映

誰もが簡単に取り組むことができる「COOL CHOICE」をテーマに、クイズ形式の15秒CMを8種類制作しました。

- ・制作CM 冷房温度は28℃編、身体を温める食べ物編、カーテンで断熱編、エコカー編、家の中でもウォームビズ編、家電買い替え編、公共交通機関編、LED編
- ・放映期間
FBCテレビCM : 9/8~15、12/22~31
ハピテラス大型ビジョン、コミュニティバス「すまいる」車内及び停留所モニター : 12月、1月

2 ごみ処理基本計画を改訂しました！

平成26年2月に策定した「福井市資源物及び廃棄物（ごみ）処理基本計画」について、計画の理念（テーマ）である「おとましい」を「行動」へを踏襲し、新たな目標を定め、平成31年3月に改訂しました。



改訂の背景

- 1 平成30年度で当該計画の前期間が終了し、新たな基本目標を定める必要がある。
- 2 令和8年度に新ごみ処理施設の稼働開始が予定されていることで、それまでに本市の新たなごみ処理の考え方についての議論、資源物や廃棄物の発生量についての予測をする必要がある。

課題

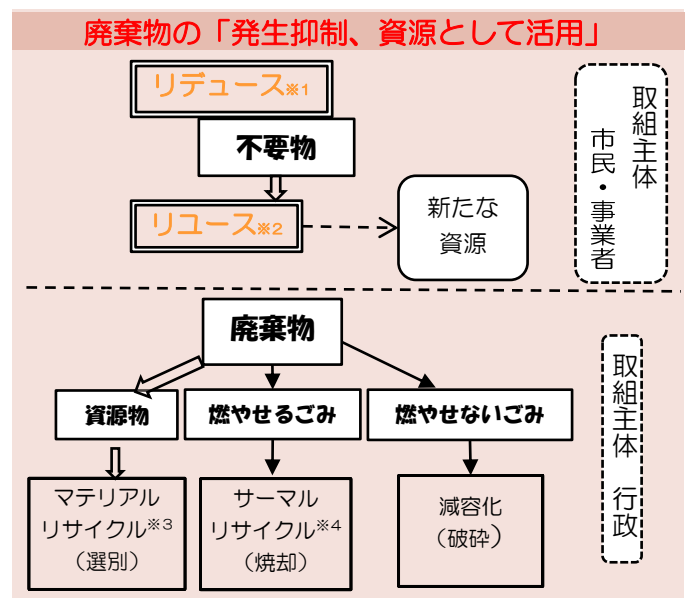
- 1 家庭系廃棄物の分別徹底と減量化
- 2 事業系一般廃棄物の減量化・資源化
- 3 ごみ処理手数料の見直し
- 4 新たな廃棄物処理施設整備
- 5 災害廃棄物の処理
- 6 超高齢社会における廃棄物処理

計画の期間

平成26年度から令和10年度までの15年間
ただし、発生量等の基本目標については、5年を目途に、適宜見直しを行います。

- ※1リデュース：廃棄物の発生抑制
- ※2リユース：不要物の再使用
- ※3マテリアルリサイクル：廃棄物を原料として再利用
- ※4サーマルリサイクル：廃棄物焼却時の熱をエネルギー利用

基本計画の方針



目標 1人1日あたりのごみの排出量

900グラム（H30年度目標）



850グラム（R5年度目標）

5.6%減量

取組の方向性

- 1 市民が2R（発生抑制【リデュース】、再使用【リユース】）に取組むための意識啓発及び排出知識の周知並びに排出抑制に向けた手数料の見直しの検討
- 2 資源物を分別排出できる機会の提供
- 3 事業者等が排出抑制に取組むための手数料の見直しを含めた仕組みづくりの検討
- 4 許可事業者との連携による焼却廃棄物等の排出抑制
- 5 市民団体や民間事業者等が取組む資源化の支援
- 6 分別品目及び区分と広域処理体制の検討
- 7 現有施設の維持管理、新ごみ処理施設の整備及び最終処分場の検討



環境の循環

第2部 第3次福井市環境基本計画

1 概要

福井市環境基本計画とは

福井市では、良好な環境の保全と創造のための施策を総合的かつ計画的に進めていくため、平成12年度に福井市環境基本計画を策定し、平成23年には、社会経済や環境の情勢の変化を踏まえて改定を行いました。その後も、本市を取り巻く環境には様々な変化が生じています。特に平成23年に発生した東日本大震災は、私たちの意識に変化をもたらし、省エネルギーや再生可能エネルギー等の重要性を考えるきっかけとなりました。

こうした社会情勢の変化や環境の現状と課題、国の動向などを踏まえ、「目指す環境像」の実現に向けた施策や指標の設定等を見直し、平成28年3月に改定を行いました。

計画の期間

平成28年度から令和2年度までの5年間

計画の基本方針

〈目指す環境像〉

未来へつなごう 環境にやさしい持続可能なまち・ふくい

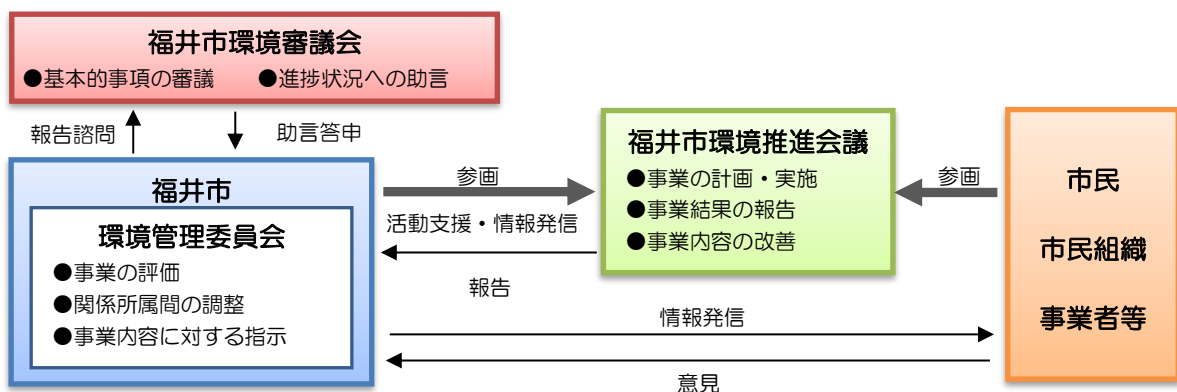


基本方針

— 全員が協力して計画を推進します —

1. 豊かな自然や生き物を守り育て、将来に伝えます
2. 快適な暮らしを守り、水と緑が豊かな都市環境を創出します
3. 温室効果ガスの排出を減らし、気候変動の影響に適応した社会づくりを進めます
4. ごみを減らし、資源を大切にする循環型社会づくりを進めます
5. 一人ひとりが環境問題について関心と理解を深め、環境を大切にする人づくりを進めます

推進体制



2 進捗状況

1 自然環境

施策① 自然環境の保護・利活用の推進

環境指標	基準年(H26)	H28	H29	H30	目標(R2)
自然活動促進事業補助件数(件)	12	4	2	2 (累計20)	20
間伐面積(除伐面積含む)(ha/年)	385	428	850	累計1,205	累計2,000

施策② 協働による里地・里山の保護と利活用

環境指標	基準年(H26)	H28	H29	H30	目標(R2)
「守り伝えたい福井市の優れた自然」掲載箇所における自然活動実施数(箇所)	2	6	8	10	全14箇所 で実施
環境ボランティア制度登録者数(人)	0 (H27設置)	104	120	153	100



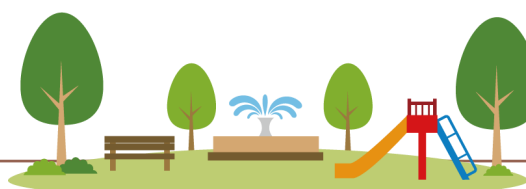
2 生活環境・都市環境

施策① 生活環境の保全

環境指標	基準年(H26)	H28	H29	H30	目標(R2)
二酸化窒素の環境基準達成率(%)	100	100	100	100	100
河川BODの環境基準達成率(%)	100	100	100	100	100
環境法令に基づく事業場への立入調査件数(件)	103	115	108	111	120
污水处理施設人口普及率(%) (公共下水道・農業集落排水・合併浄化槽)	93.7	94.7	95.2	95.8	100

施策② 都市の水と緑の保全と創出

環境指標	基準年(H26)	H28	H29	H30	目標(R2)
都市公園面積(ha)	358.53	366.18	371.08	379.37	364.94
都市環境美化活動団体数(河川・公園) (団体)	48	61	69	71	109



3 地球温暖化対策・エネルギー

施策① 低炭素型社会への転換

環境指標	基準年(H26)	H28	H29	H30	目標(R2)
福井市における温室効果ガス排出量(千t-CO ₂)	2,544	2,533	2,429	—	2,290 (10%削減)
年間エネルギー消費量(百万MJ/年)	36,199	36,382	36,957	—	33,300 (8%削減)
太陽光発電設備の導入件数(件)	2,711	3,194	3,340	3,474	3,350

施策② 環境負荷の少ない交通環境の構築

環境指標	基準年(H26)	H28	H29	H30	目標(R2)
公共交通機関の乗車人数(千人/年)	10,265	10,757	10,943	11,012	10,480
自転車利用率(%)	14(H22)	—	—	—	16

4 廃棄物・資源循環

施策① ごみの発生抑制と資源循環の推進

環境指標	基準年(H26)	H28	H29	H30	目標(R2)
市民1人一日あたりのごみ排出量(g)	917	907	900	894	850(R5)
燃やせるごみへの資源物混入率(%)	29.4	25.0	23.2	23.0	21.0(R5)
ふくいマル優エコ事業所登録数(社)	12	33	36	42	36

5 環境教育・環境学習

施策① 環境教育・環境学習の推進

環境指標	基準年(H26)	H28	H29	H30	目標(R2)
環境学習会参加者数(人/年)	2,500(H23~H26平均)	2,705	2,698	2,674	2,660
環境保全人材育成講座修了者数(人)	延べ174(H21~H26実績)	延べ215	延べ221	延べ231	延べ300

施策② 学校教育における環境学習活動の推進

環境指標	基準年(H26)	H28	H29	H30	目標(R2)
福井市環境学習プログラム取組校(校)	69 (全市立幼小中学校)	69 (全市立幼小中学校)	69 (全市立幼小中学校)	69 (全市立幼小中学校)	69



3 福井市環境推進会議の活動実績

福井市環境推進会議の 平成 30 年度の活動実績

福井市環境推進会議について

「福井市環境基本計画」を推進するため、市民、市民組織、事業者、行政により構成され、環境保全意識の向上に関する事業を協働で実施しています。

構成：総会、理事会（役員 17 名）、3 部会
会員：61 企業・団体

共通事業

●福井市環境フェア（田原町ミュージアム、田原町駅前広場、ほか）

「公共交通で出発進行！～環境にやさしい未来行き～」をテーマに団体や企業が出展し、再生可能エネルギーの普及、一般廃棄物の削減、里山の保全と利活用などについて紹介し、市民の環境意識の向上を図りました。



自然創造部会

●守り伝えたい自然の保全活用

鷹巣地区北部のため池において外来種調査を行いました。



●足羽三山の生態系保全

「足羽三山の SATOYAMA を守る会」と連携し、足羽山の竹林整備を行うなど里山保全活動に努めました。

環境フェアでは足羽山産カブトムシの無料配布を行いました。

●福井市のすばらしい自然コンテスト

福井市内のすばらしい自然に触れ合うことで、その美しさや大切さに気付いてもらい、自然環境保全について考えるきっかけとしてもらうことを目的に写真の作品コンテストを開催しました。

●自然ファンクラブ事業

自然環境保全に関する知識や技術習得のための学習会等を開催し、活動への積極的な参加を促し、人材育成を行いました。



エネルギー・資源部会

●「グリーンカーテン」の設置

商店街の潤いや賑わいを創出し、さらに生活スタイルの低炭素を PR するため、西武福井店（正面）及び福井駅西口広場に「グリーンカーテン」を設置しました。



●企業交流会

会員企業による環境取組の事例発表や専門家による省エネ及び補助金の活用に関する講演会を通して、会員企業同士で、自社の省エネ等の取組について意見交換を行いました。

環境活動普及・推進部会

●みんなの環境学習（5 講座）

市民を対象として、身近な環境に関するテーマについて講義を実施しました。

●児童館出前講座（9 児童館 10 講座）

環境問題や環境保全に主体的に関わる能力や行動を育成することを目的に、市内児童館を対象として、電気・水・ごみについて講座を実施しました。

●青年向け講座（5 講座）

グローバルな視点で地球温暖化やエコのことについて考えられる人材を育成することを目的に、青年を対象として、各国のエコ事情や環境について学ぶ講座を実施しました。

第3部 福井市の環境状況

1 自然環境

守り伝えたい福井市の優れた自然

福井市環境推進会議自然創造部会では、福井市の豊かな自然を守り育て、将来に伝えていくための取組を進めています。同部会が策定した「守り伝えたい福井市の優れた自然」14箇所のうち、ここでは足羽川ほか3箇所を紹介します。

足羽川



みどころ

足羽山と合わせて日本さくら名所100選に選ばれており、春にはたくさんの人々が訪れる。夜にはライトアップされ、昼間とは違った楽しみ方ができる。

守り育てたい生き物

オシドリ 【見頃】 通年
メスは地味な灰褐色だが、繁殖期のオスの羽毛が伸長し橙色・緑色で美しく、思羽・銀杏羽と呼ばれるイチョウの形をした飾り羽をもつ。福井県では絶滅危惧2類の指定を受けている。



味見河内

みどころ

上味見川の澄んだ水によりエサとなる貝類が豊富でホタルの大発生地となっている。初夏にはたくさんのホタルが舞い人々を魅了している。



守り育てたい生き物

ヒメボタル 【見頃】 7月
ホタルというと「清流」をイメージするかもしれないが、ヒメボタルは山中に生息している。体は小さいが強く発光し大変きれいだ。



安居地区



みどころ

水田やその脇を流れる水路には、初夏にゲンジボタルやハイケボタル、ハッチョウトンボが舞っている。当地区では、ホタルやミズアオイをビオトープで保全する活動が進められている。

守り育てたい生き物

ハッチョウトンボ 【見頃】 6~7月
日当たりのよい湧水のある湿地や休耕田に生息している。



三里浜

みどころ

九頭竜川の砂州として発達した砂丘で、南北10km、東西1.5kmに広がっている。ハマナス、ハマエンドウなどの海岸性の植物の群落もみられるため、海水浴だけでなく植物観察に訪れる人も多い。



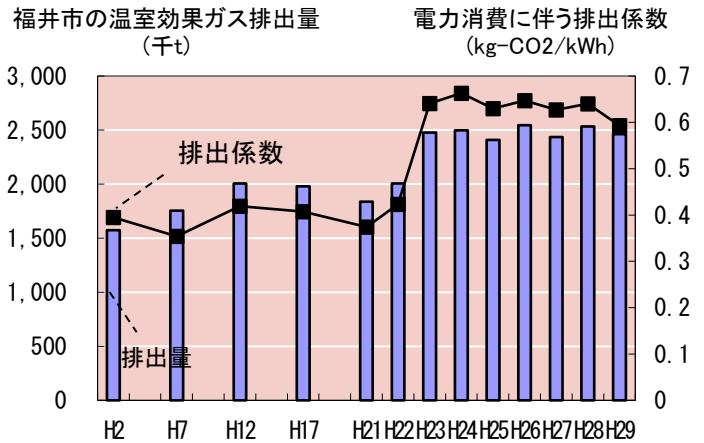
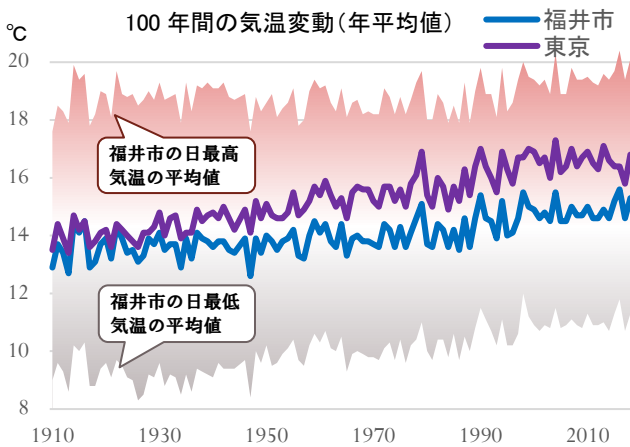
守り育てたい生き物

ハマナス 【見頃】 5~8月
主に海岸の砂地に自生し、初夏~夏に開花する。



2 地球温暖化

温暖化の現状



※発行時以降、データを変更する場合があります。
(平成26年度分からエネルギー消費統計の引用値を変更しました。)

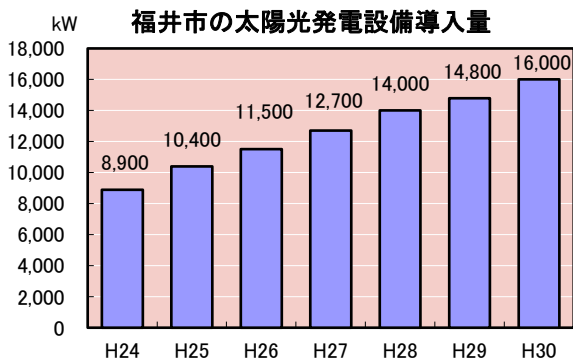
福井市においても、平均気温は上昇しており、全国同様温暖化の傾向にあります。また、福井市における温室効果ガス排出量のうち、電力の消費に伴う分が半分程度を占めています。そのため排出係数の増加は温暖化効果ガスの排出の増加と連動しています。

温室効果ガスの削減に向けた取組

太陽光発電設備導入量の増加

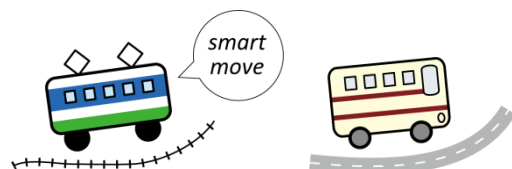
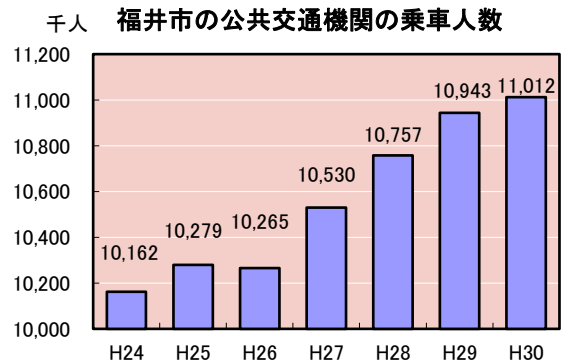
福井市では、平成13年度から28年度まで住宅用太陽光発電設備の設置に対する補助を行ってきました。平成28年度末までの累計補助実績は、2,574件(11,440kW)となっています。

また、国の再生可能エネルギーの買取制度による後押しもあり、福井市の太陽光発電設備導入量は増加しています。



公共交通機関の利用促進活動

徒歩や自転車、公共交通機関を移動の中心とした環境負荷の少ない交通環境整備を進めています。



3 環境教育・啓発

福井市環境フェア

- ・開催日 平成30年6月30日(土)
- ・場所 田原町ミューズ、田原町駅広場、フェニックスプラザ地下大会議室 A
- ・主催 福井市環境推進会議
- ・テーマ 「公共交通で出発進行! ~環境にやさしい未来行き~」
- ・来場者数 約1,500名(延べ)



- ・内容
福井市環境保全功労者表彰(個人1、団体3)
電車でピンGO★
セタアート電車Deた・な・パ★
かき氷レンジャー(人力発電でかき氷づくり)
トレジャーハンター(環境に関するクイズラリー)
講演会「今日からあなたも美人冷蔵庫 LIFE!」
市民組織、事業者、行政等の取組事例のパネル展示
まだまだ使えます! 抽選会
カブトムシの無料配布



環境アドバイザーの派遣

- ・派遣数 14講座
- ・受講者総数 386名

環境アドバイザー派遣制度とは?

福井市内の学校や各種団体が開催する環境に関する講座に、アドバイザー(講師)を派遣する制度です。

登録アドバイザー: 42名
人気メニュー: 自然散策、生き物観察など

環境学習プログラム

福井市では、学校における環境教育や環境保全活動を効果的に進めることを目的として、平成18年度から「福井市学校版環境ISO認定制度」を運用し、平成26年度からは「持続可能な開発のための教育(ESD)」の視点を取り入れ、「環境学習プログラム」事業として、取組を発展させています。

市内の市立幼・小・中学校全69校が本事業に参加し、各学校では、教員、児童・生徒が役割分担を行い、計画的な環境活動の取組を進めています。

青年向け講座「世界を旅するエコトリッパー」

グローバルな視点で地球温暖化やエコのことについて考えられる人材を育成することを目的に、青年向け講座「世界を旅するエコトリッパー」を実施しました。青年層を対象に5回の講座を行い、講義やグループワークを通して、各国のエコ事情や環境について楽しく学びました。

- 【期間】平成30年10月~平成31年3月
- 【回数】全5回
- 【テーマ例】①世界 ②バングラデシュ ③ブータン
④台湾 ⑤マレーシア



4 大気

福井市内には、一般環境大気測定局3箇所、自動車排出ガス測定局1箇所及びクリーンセンター測定局3箇所が設置されています。緊急時に迅速かつ的確に対応できるように、これらの測定局と中央監視局を通信回線で結ぶテレメータシステムにより大気汚染状況を常時監視しています。

大気汚染については、二酸化硫黄、二酸化窒素等11項目について環境基準が定められています。平成30年度における環境基準の達成状況は、二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質及び微小粒子状物質については、すべての測定局で環境基準を達成しており、良好な大気環境が維持されています。

光化学オキシダントについては、全測定局で環境基準を超過しましたが、光化学オキシダント注意報の発令はありませんでした。なお、平成30年は、全国19都府県で注意報等が発令されました。

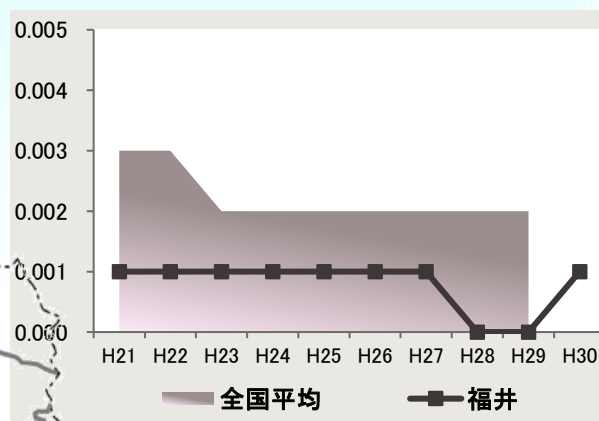
環境基準達成状況（平成30年度）

区分	局名	二酸化硫黄	二酸化窒素	浮遊粒子状物質	オキシダント	微小粒子状物質
一般環境大気測定局	石橋	○	○	○	—	—
	センター(県)	—	○	○	×	—
	福井(県)	○	○	○	×	○
自動車排出ガス測定局	自排福井(県)	—	○	○	—	○

SO_x

二酸化硫黄 (SO₂)

SO₂濃度 (ppm) の年平均値の推移

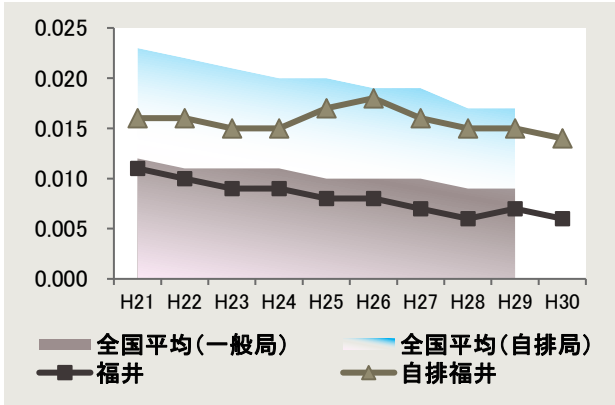


硫黄酸化物は、硫黄分を含む化石燃料等の燃焼などにより発生します。高濃度で呼吸器へ影響を及ぼすほか、酸性雨の原因物質にもなります。

NO_x

二酸化窒素 (NO₂)

NO₂ 濃度 (ppm) の年平均値の推移

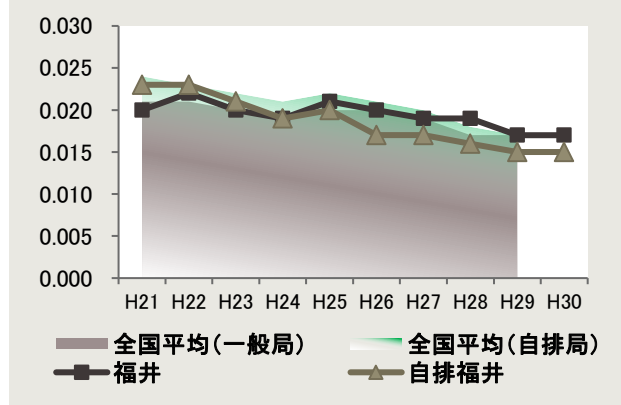


窒素酸化物は、主に化石燃料の燃焼に伴い、燃料又は空気中の窒素が酸化されることにより発生します。暖房用に燃料が多く使用される冬に濃度が高くなる傾向があります。

SPM

浮遊粒子状物質

SPM 濃度(mg/m³)の年平均値の推移

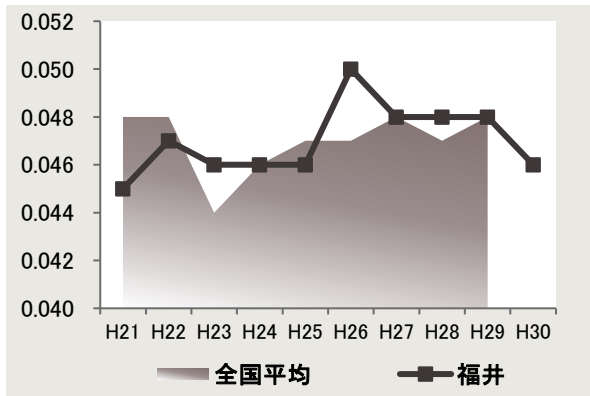


浮遊粒子状物質は、工場のばい煙や自動車の排ガス等から発生し、気道や肺胞に沈着して呼吸器に影響を及ぼすといわれています。

O_x

光化学オキシダント

オキシダント濃度 (昼間の日最高 1 時間値: ppm) の年平均値の推移



光化学オキシダントは、工場の煙や自動車の排ガスなどに含まれている窒素酸化物 (NO_x) や炭化水素 (HC)、揮発性有機化合物 (VOC) などが、太陽からの紫外線を受けて光化学反応を起こして生成される、酸化力の強い物質の総称です。

光化学オキシダントの濃度が高くなると、目やのどに刺激を与え、「目がチカチカする」「のどが痛い」等の健康被害がみられることがあります。

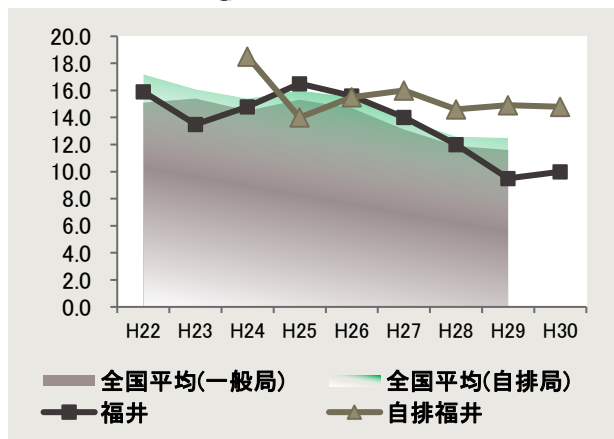
日差しが強い、気温が高い、風が弱い日などに高濃度になりやすく、注意が必要です。



PM2.5

微小粒子状物質

PM2.5 濃度 (μg/m³) の年平均値の推移



PM2.5 は、大気中に浮遊する粒子のうち、直径が 2.5 μm 以下 (1 μm は 1 mm の千分の 1) のごく小さな粒子です。粒子が非常に小さい (髪の毛の太さの 30 分の 1) ため、肺の奥深くまで入りやすく、喘息や気管支炎などの呼吸器系疾患への影響のほか、肺がんのリスクの上昇や循環器系への影響も懸念されています。



<出典:米国 EPA>

5 公共用水域の水質

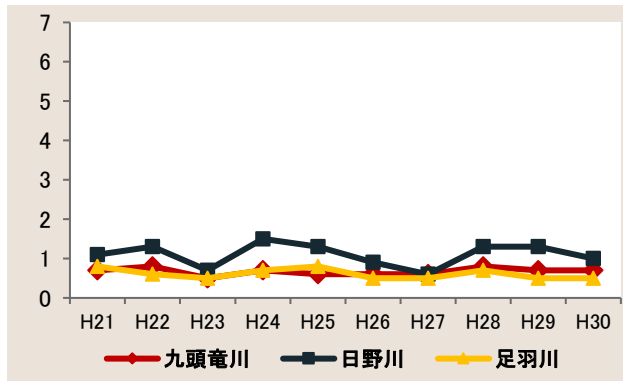
福井市では、市内 14 河川 19 地点及び地先海域 7 地点において、環境基準項目及び要監視項目の水質検査を定期的を実施しています。

平成 30 年度における環境基準の達成状況は、「人の健康の保護に関する環境基準」については、すべての調査地点で基準を満たしていました。また、BOD や COD などの「生活環境の保護に関する環境基準」については、類型指定された河川及び海域において、ほぼ基準を満たしていました。

河川

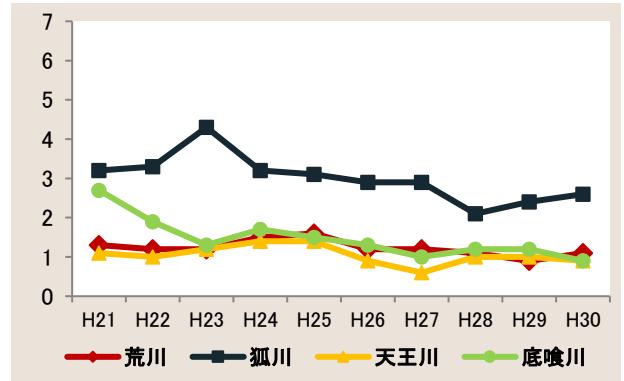
BOD の年度 75% 値 (mg/L)

九頭竜川、日野川、足羽川



九頭竜川水系の主要河川（九頭竜川、日野川、足羽川）の BOD については、環境基準を満たした低い値で推移しており、良好な水質が維持されています。

荒川、狐川、天王川、底喰川

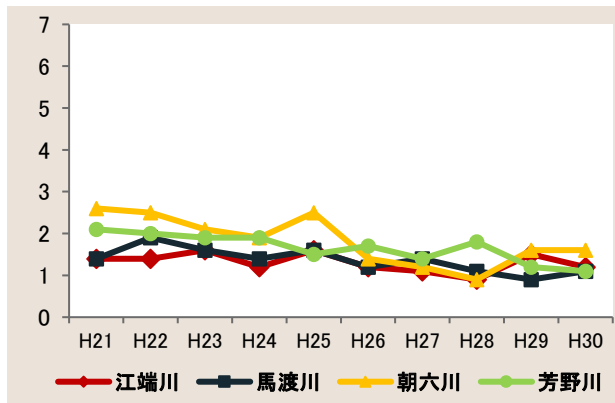


九頭竜川水系の支派川（類型指定あり）の BOD については、年々きれいになっており、環境基準を満たした良好な水質となっています。

河川

BOD の年度 75% 値 (mg/L)

江端川、馬渡川、朝六川、芳野川

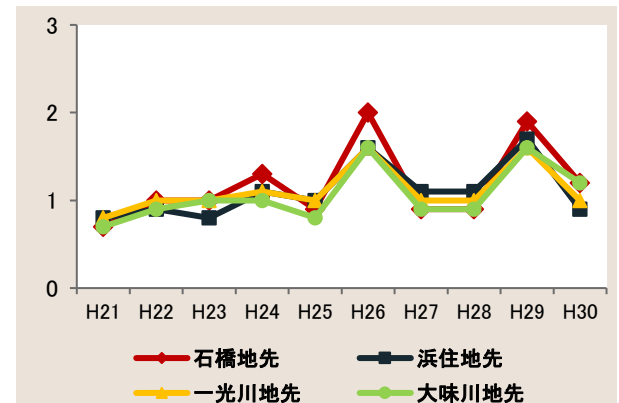


九頭竜川水系の支派川（類型指定なし）の BOD についても、他の支派川と同じように年々きれいになっており、良好な水質となっています。

海域

COD の年度 75% 値 (mg/L)

石橋地先、浜住地先、一光川地先、大味川地先



海域の COD については、環境基準を満たしており、良好な水質が維持されています。

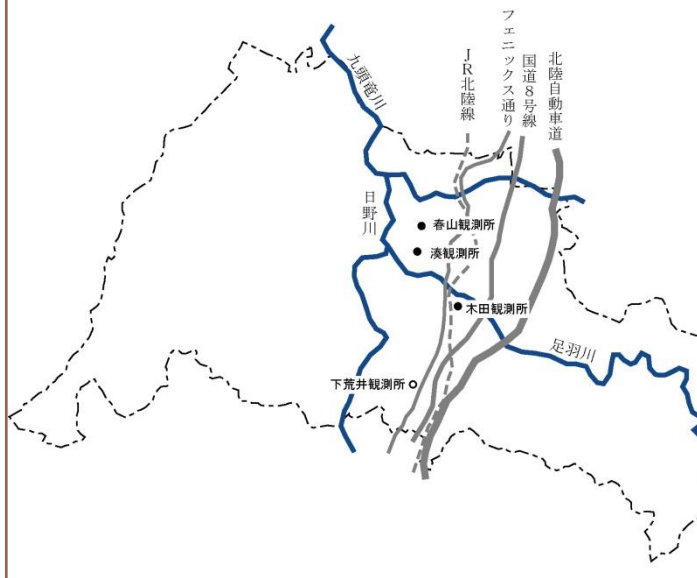
BOD：河川の水質汚濁の度合いを示すもので、この数値が大きいほど河川が汚れていることを表します。
 COD：海域・湖沼の水質汚濁の度合いを示すもので、BOD 同様、この数値が大きいほど海域等が汚れていることを表します。

6 地盤沈下

地盤沈下は、大量の地下水を汲み上げることにより、帯水層の水圧が下がり、これによって粘土層中の水がしぼり出され、その結果、粘土層が収縮するため起こるとされています。

地盤沈下・地下水位の観測

福井市では、昭和40年頃から下荒井などの南部地域において地盤沈下が認められており、福井県と協力して、昭和51年度から地盤沈下と地下水位の観測を行っています。

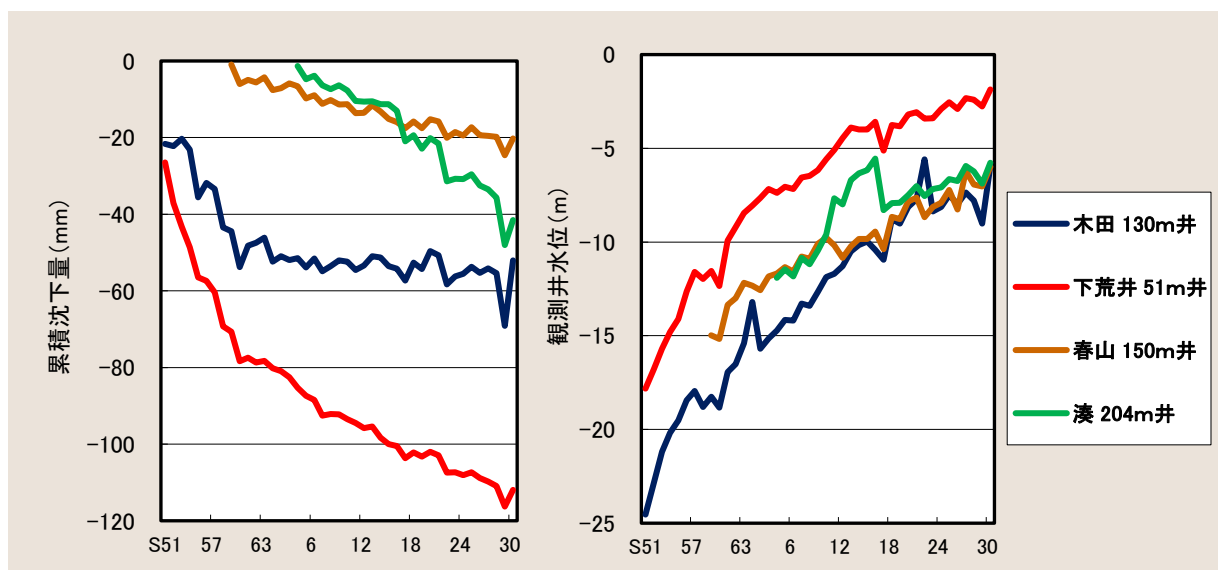


観測所名	所在地	井戸深度	設置者
木田観測所	明倫中学校敷地内	28m	県
		130m	市
下荒井観測所	八幡神社境内	51m	県
春山観測所	春山小学校敷地内	43m	市
		150m	市
湊観測所	湊小学校敷地内	204m	市

地盤沈下・地下水位の経年変化

昭和60年頃から地盤沈下は沈静化しています。これは、工場などの地下水使用量の減少などにより、地下水位が回復してきているためです。

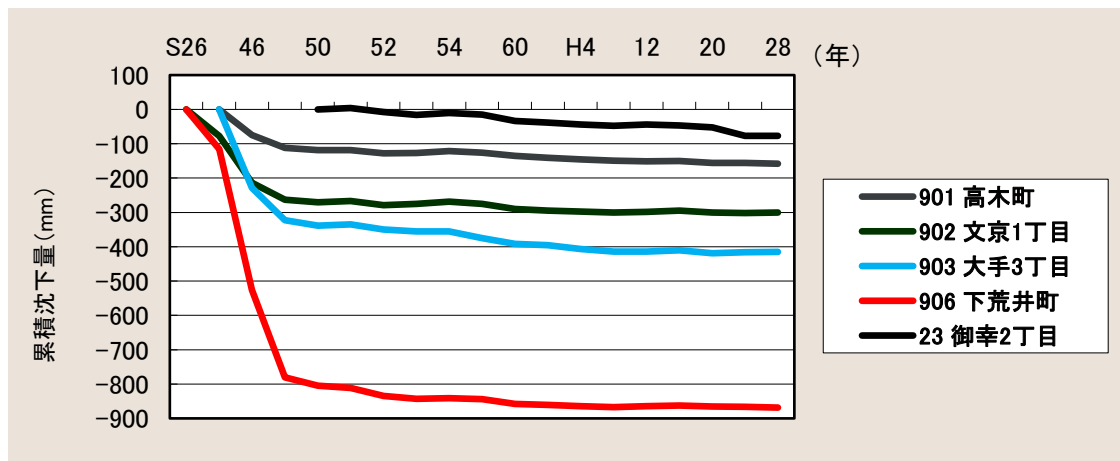
しかし、消雪目的の地下水利用により冬季に地下水位が低下するため、現在も少しずつ地盤が沈下しています。なお、平成29年度は大雪の影響により、例年よりも大きな地盤の沈下が見られました。



水準測量による地盤変動の現況

福井市では、国、福井県の実施に合わせて4年に1度、水準測量を実施しています。

昭和50年頃までは、下荒井などの南部地域において年間1cm以上の水準点の沈下が観測されましたが、平成4年度以降の測定では、ほとんどの地点において年間5mm未満の沈下量であり、市内の地盤沈下は総じて沈静化しているといえます。



7 騒音

福井市では、道路に面する地域において、環境基準の達成状況の調査を行っています。平成30年度の調査結果は、次のとおりです。

道路に面する地域の騒音調査結果

幹線道路から50mの範囲にある全ての住居等を対象に、実測値や交通量等のデータから、個別住居ごとの自動車騒音レベルを推計し、環境基準を超過する住居等の割合を評価しています。市内の幹線道路6路線9評価区間で調査を行ったところ、環境基準達成率は97.2%でした。

評価対象 住居等戸数(戸)	環境基準達成率(%)		
	昼間+夜間	昼間	夜間
2,045	97.2	99.9	97.3



自動車交通騒音の調査結果

市内の幹線道路2地点において要請限度の評価のための騒音測定を行ったところ、いずれも要請限度値に適合しています。

測定地点	測定値		要請限度値	評価
	昼間	夜間		
一般国道8号 (米松1丁目)	70	69	75	○
	70	63		
一般国道158号 (和田東2丁目)	70	63	75	○
	70	63		

単位：dB

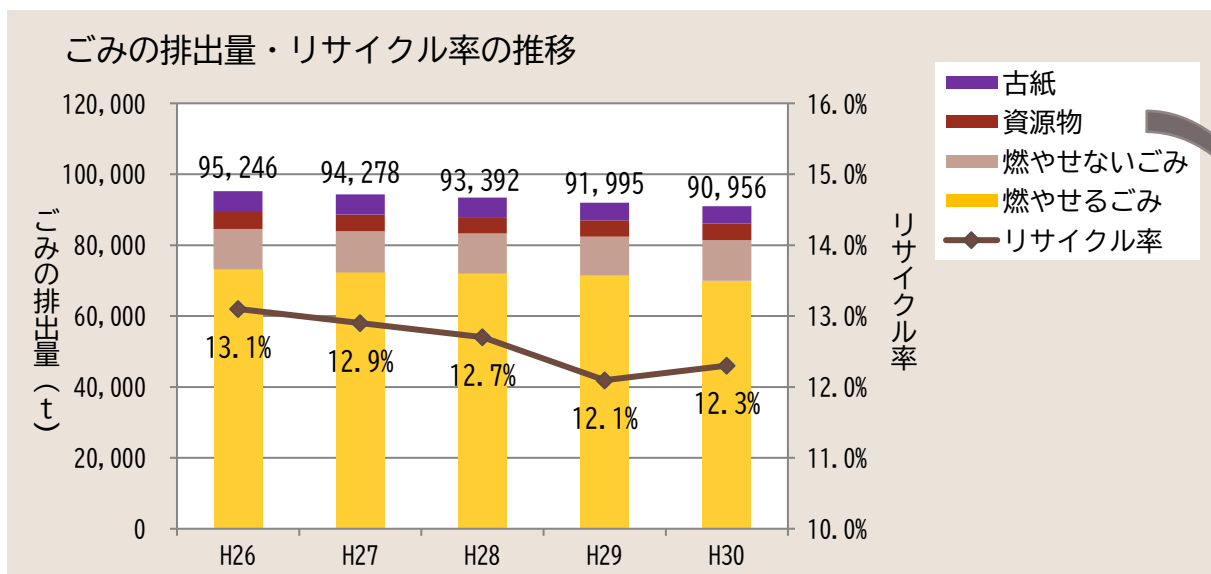


8 ごみの排出と処理状況

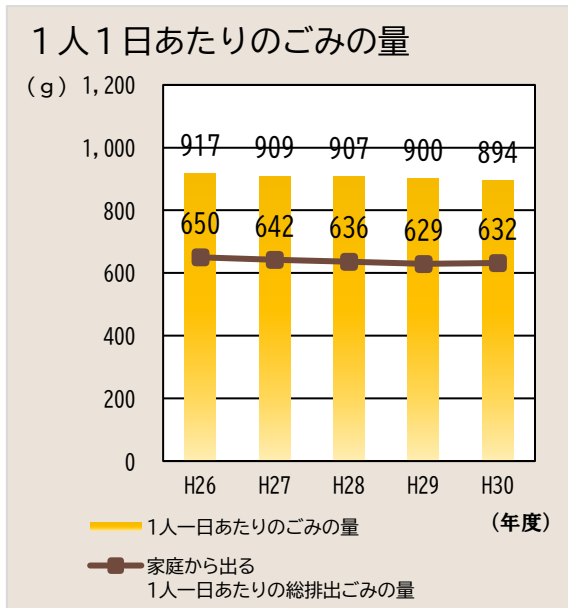
福井市のごみ処理

平成30年度のごみ総排出量は、90,956tで、前年度に比べ1,039t（1.13%）の減少となりました。リサイクル率は、12.3%と前年度より0.2ポイントの増、ピーク時（H23 15.1%）との比較では、2.8ポイントの減となっています。主として古紙回収の減少によるものですが、情報収集が新聞や雑誌などの講読から、インターネットの閲覧、電子書籍等へ変わるなど、ライフスタイルの変化が原因と考えられます。

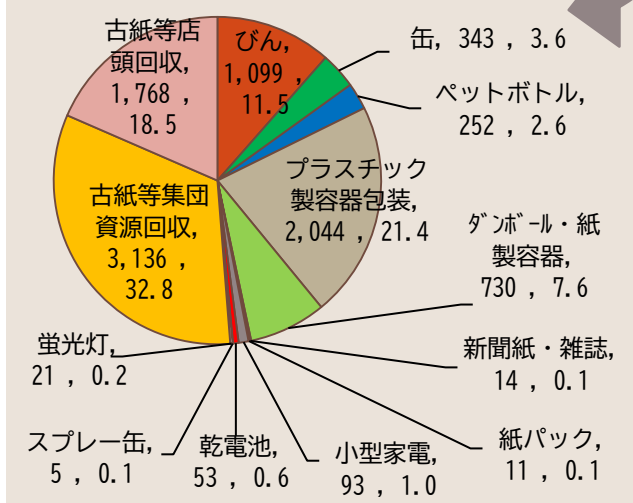
これからは、「福井市資源物及び廃棄物（ごみ）処理基本計画」に掲げたとおり、「リサイクル」の取組に加え、ごみの発生抑制「リデュース」、不要物の再利用「リユース」に取り組むことにより、廃棄物そのものの削減を図っていかねばなりません。



福井市民1人あたりのごみの量



資源物排出量の内訳 (H30) (t, %)



福井市では、平成30年度までの市民1人1日あたりのごみ排出量の目標900gを達成しました。また、新たに令和5年度までの目標の数値を850gとしました。(P6参照)

9 美しいまちづくり

都市環境の美化

- ◎ポイ捨てはやめよう！
- ◎ふんの始末は飼い主が、責任をもって処分しましょう！
- ◎自動販売機には回収容器を設置しましょう！

重点区域



重点区域内で条例に違反する行為を行った人に対しては、市長が勧告や命令を行い、命令に従わない場合には、罰金、過料を課することができます。

重点区域内の福井駅周辺において、ポイ捨て防止を啓発する活動を実施しています。



不法投棄対策

★不法投棄防止パトロール

山間部や高速道路脇など、通常人の目が届きにくい所のパトロールを行っています。

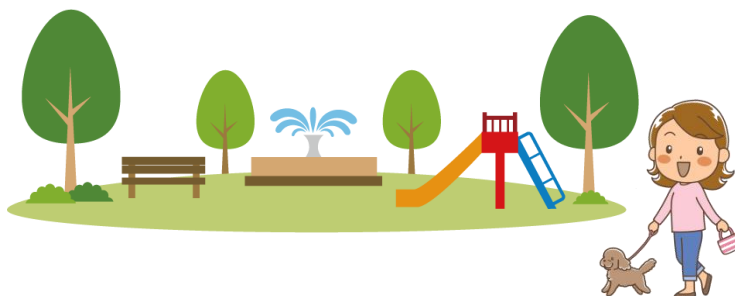
★監視カメラの設置

目的：不法投棄の未然防止、不法投棄があった場合の行為者の特定

設置場所：山間部の道路沿い、山林・河川敷等で不法投棄が多発している場所、不法投棄が拡大するおそれがある場所 など

その他

- ★空き地等の清潔保持
- ★動物（犬・猫等）の死体処理
- ★野外焼却の指導



福井市空き缶等の散乱及びふん害の防止に関する条例

目的：都市環境の美化を図り市民の快適な生活を確保し、清潔で美しいまちをつくる

対象者：事業者（容器入り飲料、タバコ、チューインガムの製造者及びこれらの商品の販売者）

市民等（市内居住者、勤務者、滞在者及び市内を通過する人）

責務：重点地域における自動販売機設置者は、回収容器を設置し、適正に管理しなければならない

市民等は、自分で出した空き缶などは持ち帰るか、回収容器や吸殻入れ等に入れなければならない

飼い主は、重点地域内で飼い犬等がふんをしたときには、直ちに回収しなければならない

区域：福井市全域



ふくいの環境（令和元年度版）

令和2年3月発刊

福井市市民生活部環境事務所環境政策課

〒910-8511

福井県福井市大手3丁目10番1号

TEL 0776-20-5609 FAX 0776-20-5754

E-mail : kansei@city.fukui.lg.jp

